



GK情報レポート

【2006年発行】

vol. 7

新年号

発行者

権田金属工業株式会社 営業部

神奈川県相模原市宮下1-1-16

電話 042-700-0221

FAX 042-700-0660

E-mail: eigyo@gondametal.co.jp

<http://www.gondametal.co.jp>

Contents

1. 新年ご挨拶…代表取締役社長 権田源太郎
2. マグネシウム展示会より…
 - ・「モノづくりネットワーク交流フェア in 燕三条」
 - ・「ソニー株式会社・神奈川県主催展示会」
3. 製造設備紹介…「コンフォーム押出機」
4. GKギャラリー…「GK会」100回記念大会
5. 相場情報…2006年・第1四半期見通し

皆様でご回覧下さい

回 覧 印										
-------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※バックナンバー（Vol.1～6）をご用意しております。ご希望の方は当社営業部までお気軽にお問い合わせ下さい

権田金属工業株式会社



1. 新年ご挨拶

新年明けましておめでとうございます。
旧年中はいろいろとお引立てを賜りありがとうございました。

昨年2005年の日本経済は、年初から春先頃にかけて景気の踊り場を迎えた感がありましたが、その後ゆるやかではあっても着実に上昇を続けてきていると思われ
ます。東証株価の5年ぶりの水準への上昇や、東京都区内での土地価格の下げ止
まり感が出てきていることなどを見ると、日本経済もようやくデフレ解消と景気
回復に向けて動き出したのではないのでしょうか。

しかし一方、伸銅業界としては、伸銅品全体の生産量が伸びない中で、
銅価格が1年間で50%も上がり、また原油価格の高騰に伴うエネルギー価格の上
昇など相変わらず舵取りの難しい環境に置かれています。
当社といたしましてはそういう厳しい環境の中、製造現場では改善を地道に進め
ると共に、営業面ではお客様との意思の疎通をさらに深める活動などの結果、販
売は量で見ても、前年と比べ若干増やすことができました。
皆様方のお引立ての賜物と深く感謝しております。

2006年は、当社の品質目標である、継続的な品質向上、技術技量の向上と継承
明日を築く研究開発の推進の3点について、さらに活動を継続して皆様方のご期
待に添えるよう努めて参ります。

また日ごろからご要望の多い、一般在庫品の充実についても努めて行くと共に単
なる素材の供給だけでなく、鍛造や切削加工をした部品としての提供についても
さらにいっそう積極的に取り組んで参ります。

以前より取り組んでおりますマグネシウム薄板の研究開発につきましては、現
在生産設備の建設を進めており、秋頃の製品の出荷を目指しています。これにつ
いては新聞でも取り上げられ、当社のホームページでも発表していますように、
神奈川県と相模原市より技術開発を評価されて助成金を頂けるようになりました。
なにぶん世界初の技術ですので、設備を入れてからが本当の苦労だと覚悟し
ておりますが、必ずや成功させて皆様方の御期待にこたえると共に、社会の利便
性の向上にも貢献したいと考えております。

本年も一層の御愛顧のほどよろしく願いいたします。

権田金属工業株式会社
代表取締役社長 権田源太郎

2. マグネシウム展示会より

「モノづくりネットワーク交流フェア in 燕三条」

2005年11月17・18日 主催：(財)新潟県県央地域地場産業振興センター

当社は、前回（2005年2月）に引き続き今回も「モノづくりネットワーク交流フェア」に参加させて頂きました。今回の交流フェア全体の入場者数は、初日約800人、二日目約1200人の合計2000人程でした。その内、100人以上の方々が当社のブースを訪れ、展示品を見たり、私共の説明を聞いて行かれました。

他の展示ブースも高度な研究成果や製品を展示していて、どんどん技術が進歩しているということを感じ、自分たちも負けなようにがんばらなければならないと思いました。二日目は来場者も増え、活気溢れる会場となり、色々な方が当社ブースを訪れました。また、当社の社長による「マグネシウム合金薄板開発」のプレゼンテーションも有り、それを聞いて興味を持って頂いた方々がブースに来られ、様々な質問をされたり、意見や要望を聞くことができました。普段は聞くことのできないユーザー様の意見や要望を聞かせて頂き、改めてマグネシウムへの期待の大きさを感じました。また、これまでマグネシウムの弱点と言われていた、表面処理法や成形方法などで協力しあえそうな技術を展示している企業も見られました。今後はこういった企業と協力し合い、現在建設中の新工場完成後は、より良い製品が出荷できるようにこれからの研究に取り組んでいきます。

最後になりましたが、当日来場して下さった方々に厚く御礼申し上げます。

(記者 大野・西山)



権田社長によるプレゼンテーション



権田金属ブースの前で (大野・西山)

「ソニー株式会社・神奈川県主催展示会」

テーマ:「双ロール鋳造法によるマグネシウム合金薄板の製造」

2005年11月10日(木)・11日(金)の両日に渡り、品川のインターシティにおいて開催されました。

今回のイベントは、ソニー株式会社が中小企業の持つ「ピカッと輝く技術の開拓」を目的に、独自の技術を持つ37社を集めて、ソニーの技術者向けの展示会として行なったものです。

また神奈川県では、神奈川県のインベスト神奈川による研究所の集積効果を県内の中小企業に普及させることを目指しています。

当社も現在進めている「双ロール鋳造法によるマグネシウム合金薄板の製造」が評価されて招かれ、マグネシウム合金薄板・鍛造品の出展を行ないました。

初日のオープニングセレモニーには、ソニー株式会社中鉢社長、またインベスト神奈川を積極的に進められている松沢神奈川県知事も出席され、未来を切り開く新技術に対する期待の高さを強く感じさせるものとなりました。

また当社ブースには、中鉢社長、松沢県知事も直接お越しになり、当社の担当員からのマグネシウム合金薄板・鍛造品に関する説明を熱心に聴き入っておられました。



当社展示ブース

今回のイベントの来場者は、ソニー社員、ソニー関連会社社員に限定されたものでしたが、来場者数は2日間で1230名あり、そのうち当社ブースを訪れ、マグネシウム合金薄板・鍛造品の詳しい説明を受けられた方は120名以上もいらっしゃいました。マグネシウム製品に対する期待が非常に高いものであることを強く感じました。

この2日間で多数のご意見やご質問が寄せられましたが、今後の研究開発に役立て、よりよいマグネシウム製品の開発に結び付けて行きたいと思っております。ありがとうございました。
(記者・高安)

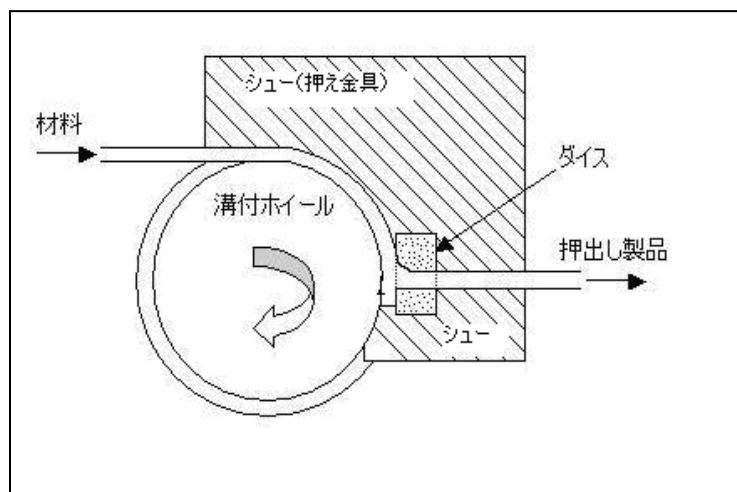
3. 製造設備紹介…「コンフォーム押出機」

主にアルミニウム型材のユニークな製造方法として使われているコンフォーム押出機を、当社では独自の技術を加えながら銅製品の製造に用いています。

コンフォーム押出機は、1971年に英国原子力公社のD・Green博士により連続押し装置として考案されたものです。コンフォーム押出機では、通常の塑性加工の常識を超えて、素材の断面積よりも大きい製品を連続的に押出すことが出来ます。

1、コンフォーム押出機の原理

図のように、左側から挿入された素材は、シュー（押え金具）と溝付ホイールで拘束されてダイスに導かれ、摩擦力と摩擦熱によってダイスの形状に変形して押し出されます。



2、権田金属のコンフォーム押出機の製品の特徴

- ① 複雑な断面形状の製品ができます。
- ② 連続的に押し出しが出来るため、長尺品が作れます。通常の押し出しがビレットの重量によって制約されるのに対し、当社では、1トン以上のコイルまで生産できます
- ③ さらに当社では、荒引き線製造設備と組み合わせることにより、高純度の無酸素銅の製品を製造することが出来ます。

3、権田金属での研究開発

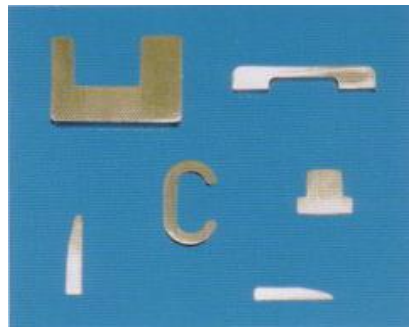
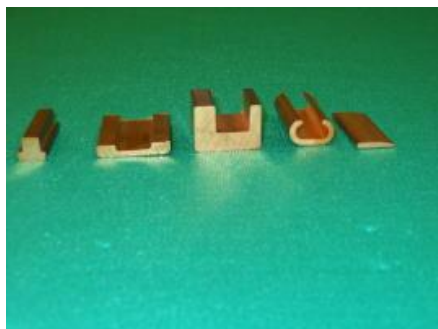
当社では、コンフォーム押出機の持っている機能に、当社独自の研究と産学共同（東海大学 吉田教授）での研究開発の成果を加えて、銅製品の製造に活用しています。産学共同の研究開発に関しては、平成11年に神奈川県基盤整備振興事業補助金を頂戴しました。

4、権田金属のコンフォーム押出機 新たな活用例

当社では多種多様な機能を保有するコンフォーム押出機的能力を最大限に引き出し、当社独自の研究開発を加味し、異形材といった分野への活用に取り組んでいます。

特徴的な機能を有するコンフォーム押出機を今回初めて皆様方に紹介させて頂きました。当社ではコンフォーム押出機の特徴を活かした製品のお引合をより多く頂き、皆様方のお仕事により一層貢献したい所存であります。

ご活用の際、宜しくお願い申し上げます。



(記者 吉田・日吉)

4. GKキャラリー…「GK会」100回記念大会

§ 権田金属工業（呼称GK）では、長年お取引があるお客様、仕入先様と親睦、情報交換の場としてGK会というゴルフコンペを年2回、開催しております。このGK会も皆様のご協力のお陰で昨年100回を迎える事ができ、記念大会を10月14日、箱根カントリークラブで行いました。ゴルフの後は仙石原仙郷楼に宿泊し懇親を深め、有意義な時間を過ごせました。

100回大会優勝者である株式会社笹野マックスの笹野社長に寄稿していただきました。「笹野社長ありがとうございます」 §

「伝統あるGK会、それも記念の100回大会に優勝する事が出来これ以上の喜びは有りません。親子二代35年以上に渡りGK会には参加させて頂いた事も有り何か感慨深いものを感じます。当日は最高のお天気の中、箱根CCで藤倉商事の橋本さん、泉金属の荒井さんと和気藹々と楽しくプレーする事が出来ました。コースコンディションも最高で特にグリーンは高速でちょっと油断をすると3パットはおろか4パットも有りました。

勝因は無欲の勝利です。前日酷い腹痛に見舞われ殆ど眠る事が出来ず最悪の状態当日を迎えました。皆様にご迷惑をかけず18ホールをプレーできれば良いと言う気持ちがかえって力まず良いスコアにつながったと思います。改めてゴルフはメンタルのスポーツであると強く感じました。

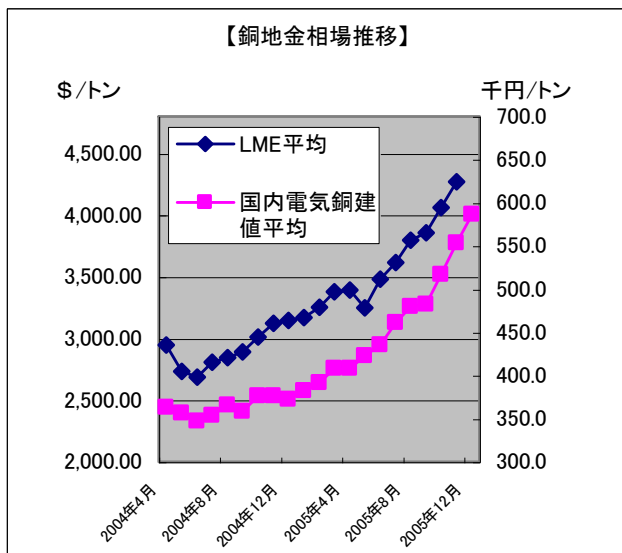
楽しいばかりでなく色々情報交換も出来勉強になるGK会が権田金属工業(株)様の発展と共に今後150回200回と続く事を願うと同時に私も出来る限り参加させて頂きたいと思っています。」



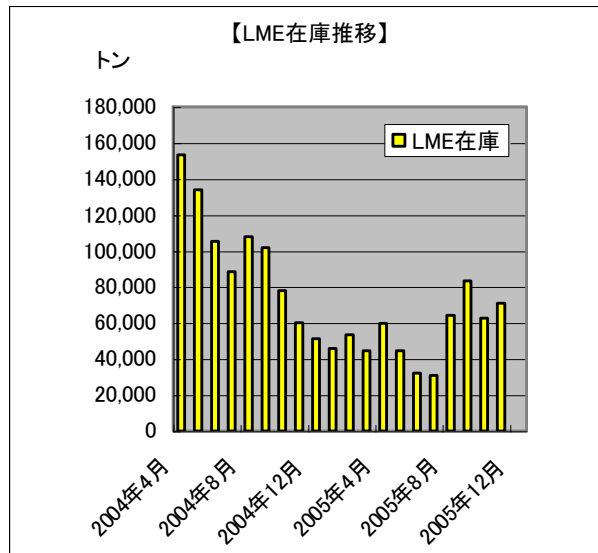
株式会社 笹野マックス
代表取締役社長 笹野 太志郎

5. 相場情報…2006年・第1四半期見通し

【銅地金相場推移】



【LME在庫推移】



◆電気銅建値推移◆

10月・・・500円スタート (平均 517.0円)
 11月・・・530円スタート (平均 553.5円)
 12月・・・570円スタート (平均 586.8円)
 1月・・・580円スタート


2005年12月6日には30円を引き上げ、大台「600円」を回復。

1980年(昭和55年)3月以来、25年振りの高水準となった。

これは2005年初比(390円)からすると+210円、54%の上げ幅である。

◆LME在庫状況及び需給状況◆

LME在庫は12月に入りようやく8万トン台を回復したが、依然として低水準にある。但し中国にはかなりの在庫が積みあがっているという情報もあり、足元での現物のタイト感 は解消しつつある。今後の大型案件は少ないと言われている各国鉱山会社ではあるが、2008年までは引き続き増産の方針を打ち出しており、2005年同様、2006年の生産も順調に増えると考えられる。市場在庫が安定水準に戻すまでは多少の時間を要すると思われるが、オリンピックや万博開催を控えた中国、大規模なインフラ整備が必要不可欠なインド等の新興国の需要がどう振れるかが今後も最大の焦点である。



◆現在の相場状況◆

12月9日に4,475ドル（3ヶ月先物）前後の市場最高値を更新したように、2005年の暮れはLME銅の急騰と為替の続落により歴史的な高水準で推移した。これは銅だけでなく非鉄金属や貴金属全体に言えた事であり、原油相場に見られた長期投機資金が流入したことが最大の原因であった。これらは他の商品に比べリスクが少なく利回りがよいとされているため、今後も格好の投機対象となっていくはずである。銅について言えばこの投機資金が市場から手を引かない限り、銅相場の大きな下落は予想し難い状況である。

◆為替の見通し◆

12月前半は日米金利の格差拡大を背景に、ドル高・円安が加速。円TTSは2003年2月以来の安値となる122円台へ下がった。これを背景にドル買い・円売りを進めてきた市場であったが、12月も後半に差し掛かると金利差拡大もそろそろ終わりと察した利益確定の動きが広がり、円TTSは115円台を回復した。米国が抱えている巨額の対外赤字は深刻化する一方で解決には向かっていないが、市場ではこの問題を材料にしてドルを売る気はないようである。このような金利格差拡大を背景とした投資が先行してきたが、今後の焦点は「景気」と読む。日米どちらの景気も今のところ順調に推移しており、相場の対象にはなっていないが、変調を来した方の通貨が売られることになるであろう。

◆相場の見通し◆

高値警戒感は根強いが実際はこれを無視する形で積極買いが入っており、高値追いがいつ終わるのか不透明な局面が続く。増産効果が地金ベースでLME在庫に反映されるまでは高値基調が続くものと思われる。個人的には春先までに20万トン台を回復すれば、トレンドが変わると予想している。

◆相場予測◆

短期予測（1M）	：	LME\$4,500～4,850	為替¥113～120	銅建値¥560～610
中期予測（3M）	：	LME\$4,250～4,850	為替¥112～120	銅建値¥530～630

（記者 小川）

